

定量的な基準について (医療機能や供給量を把握する目安)

1

「地域医療構想調整会議の活性化のための地域の実情に応じた 定量的な基準の導入について」 (平成30年8月16日 厚生労働省医政局地域医療計画課長通知)

<現状及び経緯>

①病床機能報告において

○回復機能に該当するのは、「回復期リハビリテーション病棟」や「地域包括ケア病棟」に限られるという誤解

○主として回復機能を有する病棟であっても、急性期機能と報告されている病棟が一定数存在

②実際の病棟には、主として「急性期」や「慢性期」として報告された病棟においても「回復期」の患者が一定数存在

○詳細な分析や検討が行われないまま、回復機能を担う病床が大幅に不足していると誤解させる事態が生じているとの指摘

○一部の都道府県で、都道府県医師会等との協議を経て、地域の実情に応じた定量的な基準により、医療機能や供給量を把握するための目安を算定し、地域医療構想調整会議での議論に活用

<通知主旨>

➤ 県が、本年度中に、県医師会などの医療関係者等との協議を経た上で、地域の実情に応じた定量的な基準を導入されたい

<参考> 他県の取組状況～佐賀方式～

2

「回復期」の充足度を判断する際の病床機能報告の活用（案）

○ 病床機能報告は、各医療機関が自主的に病床機能を判断。この原則を踏まえつつ、地域医療構想調整会議分科会における協議に資するよう、病床機能報告で回復期以外と報告されている病床のうち、

- ・①②については、回復期の過不足を判断する際に、回復期とみなす
- ・③については、将来の見込みを判断する際に、参考情報とする

ことで、病床機能報告と将来の病床の必要量の単純比較を補正してはどうか。

①既に回復期相当	<p>病床機能報告における急性期・慢性期病床のうち、病床単位の地域包括ケア入院管理料算定病床数</p> <p><u>※病床単位の報告である病床機能報告の制度的限界を補正</u></p> <p>病床A 急性期の患者 回復期の患者 ←可能な限り客観指標で把握</p>
②回復期への転換確実	<p>調整会議分科会において他機能から回復期への転換協議が整った病床数</p> <p><u>※病床機能報告のタイムラグを補正</u></p>
③回復期に近い急性期	<p>病床機能報告における急性期病床のうち、平均在棟日数が22日超の病床の病床数</p> <p>病床B 急性期の患者 回復期の患者 ←平均在棟日数22日超のイメージ</p>

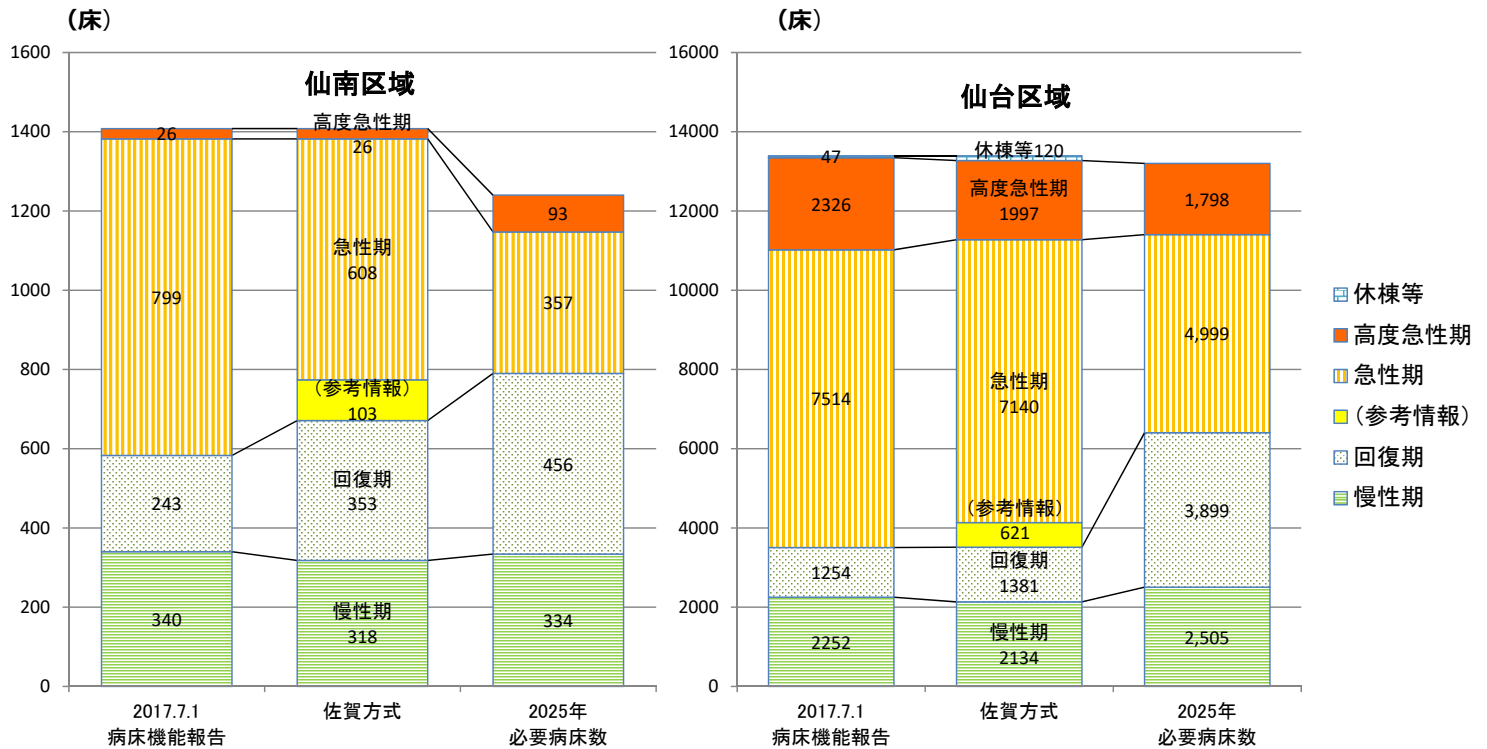
3

佐賀方式を参考とした試算例

①既に回復期相当	<p>病床機能報告における急性期・慢性期病床のうち、病床単位の地域包括ケア入院管理料算定病床数</p> <p><u>※病床単位の報告である病床機能報告の制度的限界を補正</u></p> <p>病床A 急性期の患者 回復期の患者 ←可能な限り客観指標で把握</p>
②回復期への転換可能性あり	<p>平成29年度病床機能報告における6年が経過した日における病床の機能の予定を反映</p>
③回復期に近い急性期	<p>病床機能報告における急性期病床のうち、平均在棟日数が22日超の病床の病床数</p> <p>病床B 急性期の患者 回復期の患者 ←平均在棟日数22日超のイメージ</p>

- ・①②については、回復期とみなし、③については、将来の見込みを判断する際の、参考情報として試算

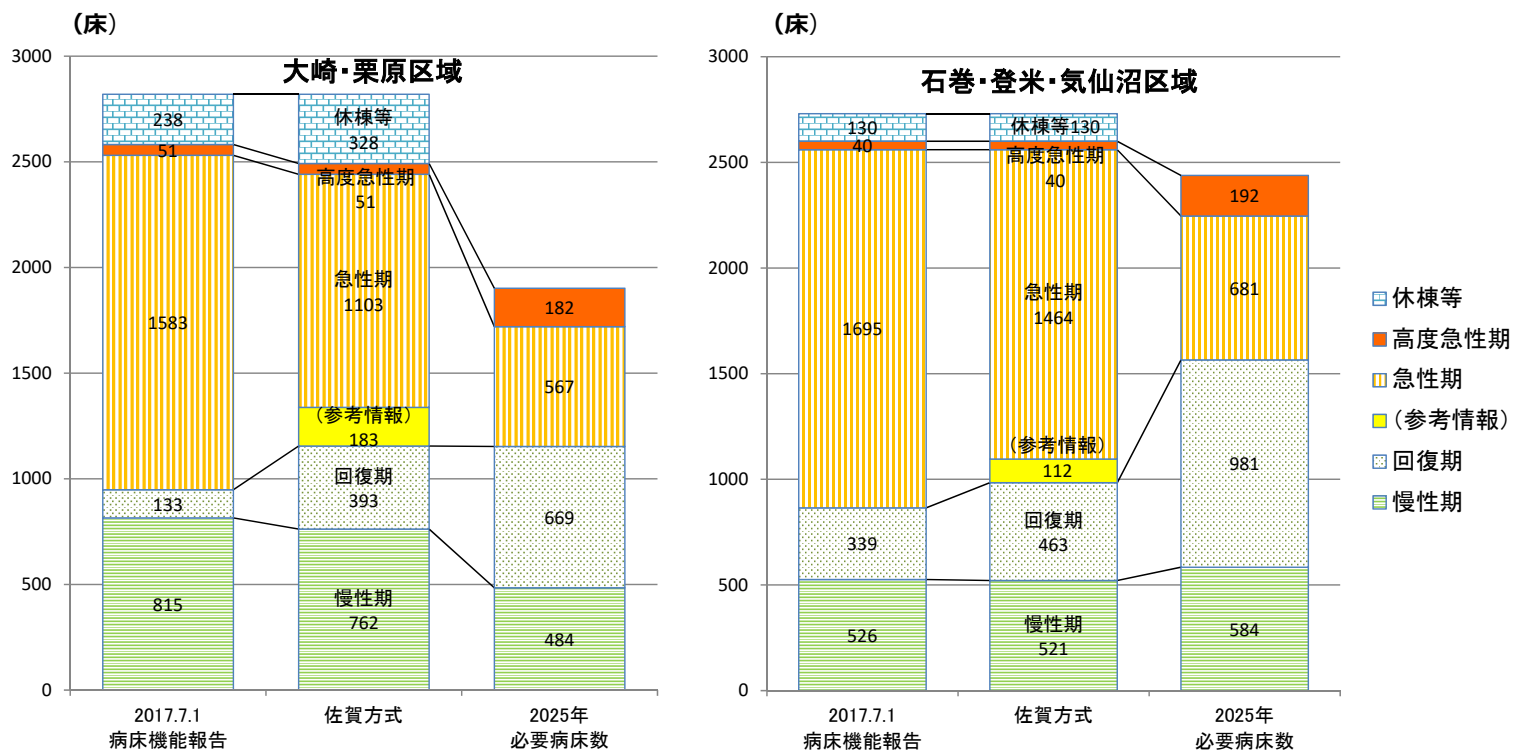
(仙南区域) ・ (仙台区域)



(参考情報) : 病床機能報告における急性期病棟のうち、平均在棟日数が22日超の病棟の病床数

5

(大崎・栗原区域) ・ (石巻・登米・気仙沼区域)

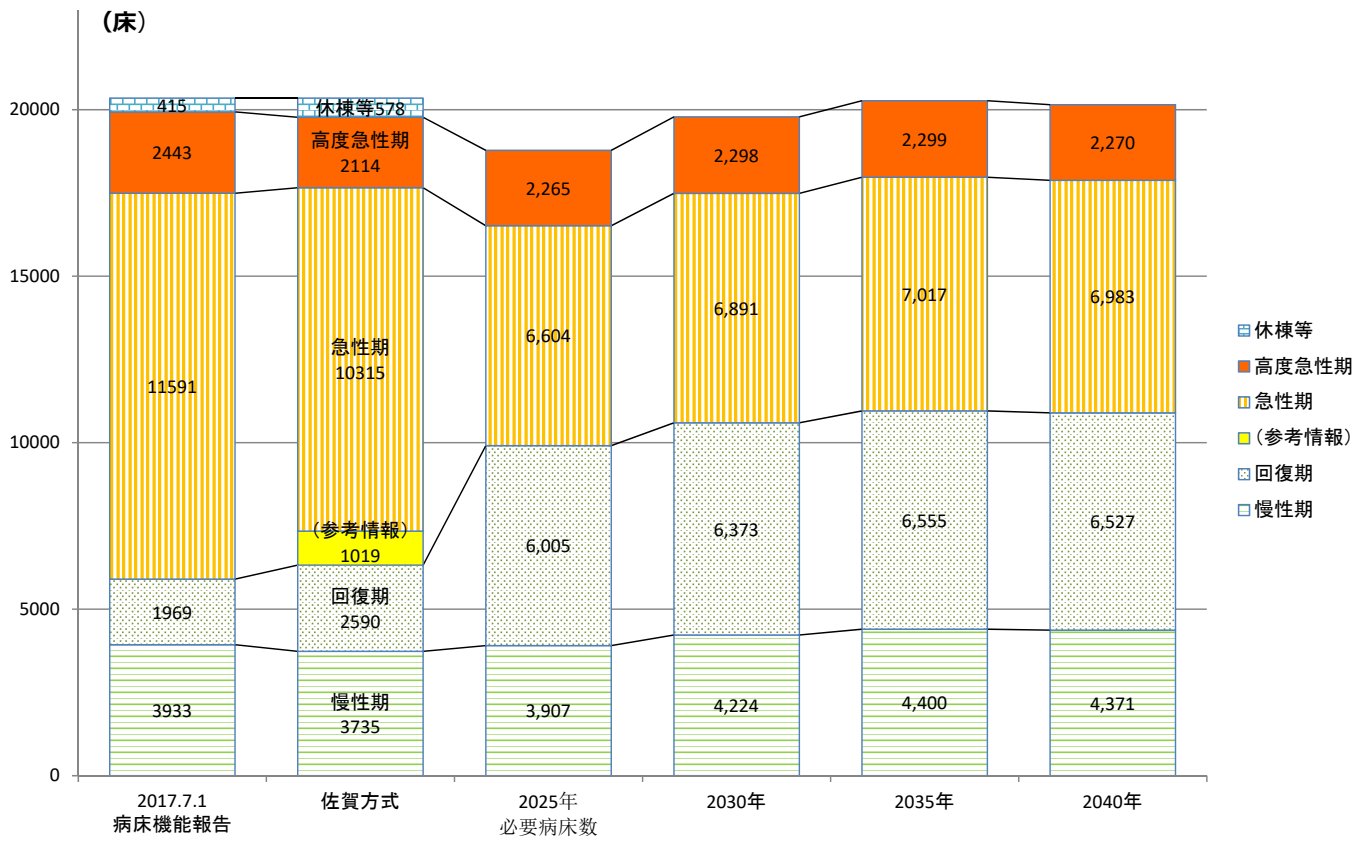


※保険診療を行っていない国立療養所東北新生園は含んでいない。

(参考情報) : 病床機能報告における急性期病棟のうち、平均在棟日数が22日超の病棟の病床数

6

県全体



(参考情報)：病床機能報告における急性期病棟のうち、平均在棟日数が22日超の病棟の病床数
 ※保険診療を行っていない国立療養所東北新生園は含んでいない。